

2022年3月期 連結業績概要

専務執行役員
山西 哲司

(注) 決算短信の修正に伴い、2022年5月25日に説明会資料の数値を修正いたしました。
修正箇所には下線を付して表示しております。

山西でございます。本日はご多忙のところ、当社2022年3月期通期決算説明会に多数ご参加いただき、誠にありがとうございます。それでは私から連結業績概要についてご説明します。

2022年3月期 通期決算のポイント

Attracting Tomorrow 

米中対立やコロナ禍による影響を受けるも、社会経済活動の正常化、生産活動の回復により、エレクトロニクス需要は堅調に推移。売上高・営業利益とも過去最高を更新*。

●売上高は前期比28.6%増、営業利益は前期比49.4%増

- 自動車生産は半導体や部材供給制約の影響を受けたものの、部品搭載点数の増加傾向や部材在庫確保の動きにより、自動車市場向けの販売は堅調に推移。受動部品、センサの販売が拡大。
- ICT市場では、スマートフォンの生産が期初想定を下回るも、PC、タブレットの需要は引き続き堅調に推移。また、データセンター向けの投資が回復し、サーバー需要が拡大。二次電池、センサ、HDDヘッドの販売が拡大。
- 旺盛な設備投資を受け、産業機器市場の需要が堅調に推移。受動部品、二次電池、電源の販売が拡大。
- 期末配当予想を9円増配。

*営業利益は2017年3月期に計上の事業譲渡益を除いたベースで比較

2022年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/5/11・2

まず決算のポイントです。2022年3月期においては、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大や米中関係の緊張状態をはじめとした政治的対立の懸念等により部材調達におけるサプライチェーン上の制約が長期化し、自動車やスマートフォン等の生産台数が伸び悩みました。一方、社会経済活動の正常化が進み生産活動の回復傾向も続いたことによりエレクトロニクス需要が堅調に推移した結果、全セグメントで売上が拡大しました。受動部品の収益拡大やセンサの黒字化によって、よりバランスの良い収益構造となり収益性も向上しました。売上高は前期比28.6%の増収、営業利益は前期比49.4%の増益となり、売上高、営業利益は過去最高を更新しました。

自動車市場においては、部材調達におけるサプライチェーン上の制約を受け生産台数が前期並みにとどまったものの、更なるxEVの進展、ADAS等電装化の加速による部品搭載点数の増加や顧客の部材在庫確保の動きにより需要が堅調に推移し、受動部品やセンサの販売が拡大しました。

ICT市場においては、PCやタブレット端末の需要が2022年3月期も堅調に推移しました。データセンター向けの需要も回復しサーバー用HDDの生産が好調に推移した結果、PC、タブレット、HDD向け売上が増加しました。スマートフォンは、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大等が部材調達や需要に影響を及ぼし生産台数が前期を下回る水準となりましたが、スマートフォン向け製品の採用拡大もありスマートフォン向け売上は増加しました。二次電池、センサ、HDDヘッドの販売が拡大しました。

産業機器市場でも、企業の設備投資が堅調に推移しました。半導体等製造設備向けや再生可能エネルギー向け等の販売が増加し、受動部品や産業機器用電源の売上が拡大したことに加え、二次電池において家庭用蓄電システム向け等中型電池の売上が伸びました。

2022年3月期に投資有価証券の評価益602億円を営業外収益に計上し、当期純利益が大きく増加しました。評価益を除く実業ベースでの当期純利益も2022年1月31日発表の通期見通しから増加したことにより、1株当たり利益の向上を踏まえ、期末配当予想を9円増配しました。

2022年3月期 連結業績概要

Attracting Tomorrow 

(億円)		2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	前期比	
				増減	増減率 (%)
売上高		14,790	19,021	4,231	28.6
営業利益		1,115	1,667	551	49.4
営業利益率		7.5%	8.8%	+1.3 pt	-
税引前利益		1,219	2,342	1,123	92.1
当期純利益		793	1,836	1,043	131.4
1株当たり利益 (円)		209.36	484.53	-	-
為替	対ドルレート (円)	106.05	112.33	5.9%の円安	
	対ユーロレート (円)	123.67	130.53	5.5%の円安	
為替変動による 影響金額		売上高：約1,257億円の増収 営業利益：約69億円の増益			

2022年3月期通期決算説明会

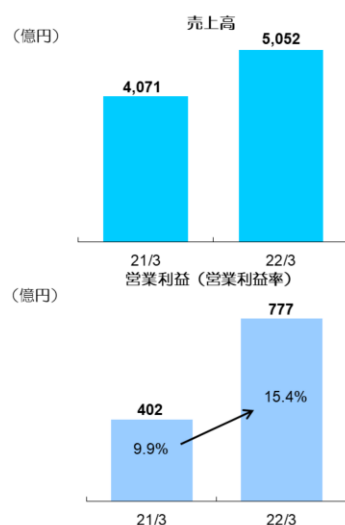
© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/5/11・3

次に業績概要をご説明します。対ドル等の為替変動で売上高は約1,257億円の増収、営業利益で約69億円の増益影響がありました。それらを含み、売上高は1兆9,021億円、前期比4,231億円、28.6%の増収、営業利益は1,667億円、前期比551億円、49.4%の増益となりました。既にご説明した通り、投資有価証券評価益602億円を営業外収益に計上したことにより、税引前利益、当期純利益はそれぞれ2,342億円、1,836億円と大きく増加し、全ての損益項目で過去最高を更新しました。1株当たり利益は484円53銭となりました。

為替の感応度は、営業利益で円とドルの関係において1円の変動で前回と同様年間約12億円、円とユーロの関係において約2億円と試算しています。

2022年3月期 各事業の状況（受動部品事業）

Attracting Tomorrow **TDK**



売上高 5,052億円（前期比24.1%増）
営業利益 777億円（前期比93.2%増）

- セラミックコンデンサ
 - ↳ 前期比で増収増益。
 - ↳ 自動車市場及び代理店向け販売が増加、ICT市場向け販売が減少。
- アルミ・フィルムコンデンサ
 - ↳ 前期比で増収、収益が改善。
 - ↳ 産業機器市場及び自動車市場向け販売が増加。
- インダクティブデバイス
 - ↳ 前期比で増収増益。
 - ↳ 自動車市場及び産業機器市場向け販売が増加。
- 高周波部品
 - ↳ 前期比で増収減益。
 - ↳ 自動車市場向けの販売が増加。
- 圧電材料部品・回路保護部品
 - ↳ 前期比で増収増益。
 - ↳ 産業機器市場及び自動車市場向けの販売が増加。

2022年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/5/11・4

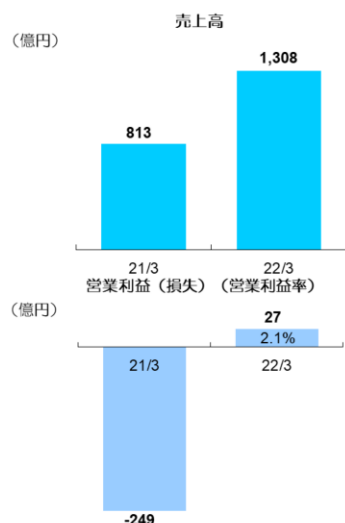
続いて、通期のセグメント別の状況についてご説明します。

受動部品セグメントの売上高は5,052億円、前期比24.1%の増収となりました。自動車生産台数は前期比横ばいながらも、部品搭載点数の増加によって自動車向け販売は引き続き好調に推移しました。産業機器市場向けも、再生可能エネルギーや生産設備向け需要が好調に推移しました。ICT市場向けの需要は、スマートフォンの生産台数減少により微増にとどまりました。営業利益は777億円、前期比約1.9倍の増益、営業利益率も15.4%となり、収益性も大きく向上しました。

事業別では、高周波部品を除く自動車市場向け販売比率の高い事業で増収増益となり、特にコンデンサ及びインダクティブデバイスの収益性向上が全体収益の拡大に寄与しました。

2022年3月期 各事業の状況（センサ応用製品事業）

Attracting Tomorrow



売上高 1,308億円（前期比60.8%増）
営業利益 27億円（前期比―%増）

● センサ

- ▶ 前期比大幅な増収増益により黒字化を達成。
- ▶ 温度・圧力センサは、自動車市場用途及び家電向け売上が増加し、収益も改善。
- ▶ 磁気センサは、ホールセンサの自動車向け販売が増加し、収益も改善。TMRセンサは、ICT市場向け販売が大幅に拡大。収益も大きく拡大。
- ▶ MEMSセンサは、モーションセンサ及びマイクロフォンの販売が顧客基盤とアプリケーションの拡大により大幅に増加し、収益も大きく改善。

2022年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/5/11・5

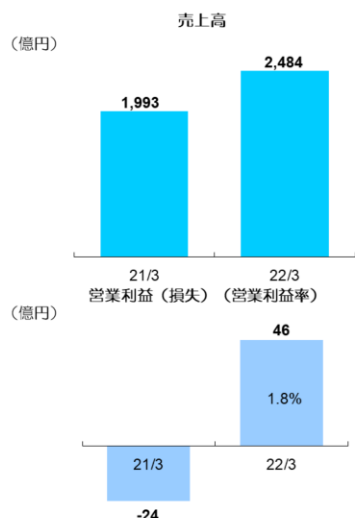
センサ応用製品セグメントは、売上高が過去最高の1,308億円、前期比60.8%の増収となりました。第4四半期に一時費用20億円が発生したものの、増収効果や製品構成の好転等により、営業利益は通期で27億円の黒字化を達成しました。

温度・圧力センサは自動車市場向けに加え、産業機器向けや生活家電向け需要が堅調に推移し増収となりました。ホールセンサも自動車市場向けに売上が増加し、収益が大きく改善しました。

TMRセンサは、ICT市場向け需要の増加に加え、製品の新規採用拡大により大幅な増収増益、MEMSセンサは顧客基盤やアプリケーション拡大の成果が着実に実績に表れてきており、モーションセンサ、MEMSマイクロフォンの販売が大幅に増加しました。収益改善も進み赤字が大きく縮小しました。

2022年3月期 各事業の状況（磁気応用製品事業）

Attracting Tomorrow **TDK**



売上高 2,484億円（前期比24.7%増）
営業利益 46億円（前期比―%増）

- HDDヘッド・HDDサスペンション
 - ↳ HDDヘッドはデータセンター向け投資回復により、ニアライン用が大幅増加し前期比で増収増益。
 - ↳ HDDサスペンションもニアライン用が好調により増収、一時費用による影響で減益。
- マグネット
 - ↳ 自動車市場向けの販売が増加し前期比で増収。材料高騰の影響等により収益改善進まず。

2022年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/5/11・6

磁気応用製品セグメントは、売上高が2,484億円、前期比24.7%増収、営業利益は前期赤字から46億円の利益計上となりました。

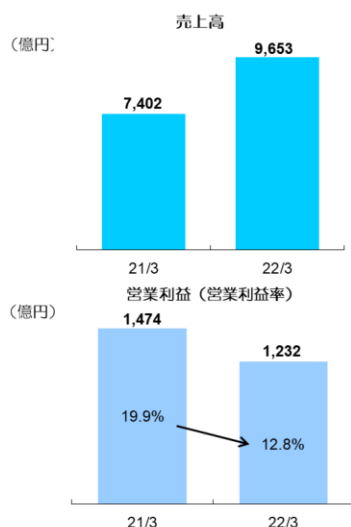
HDDヘッドにおいては、期初からデータセンター向けサーバー需要の回復が進み、ニアライン用HDDヘッドの販売数量は前期比で1.9倍の増加、HDDヘッド全体でも33%の数量増加となり、増収増益となりました。

HDDサスペンションもニアライン用サスペンションの販売が引き続き好調に推移し増収、一時費用を除いた実質ベースでは増益となりました。

マグネットは、自動車市場向け販売が堅調に推移し増収となりましたが、原材料の値上り影響があり、前期並みの赤字が継続しました。

2022年3月期 各事業の状況（エナジー応用製品事業）

Attracting Tomorrow



売上高 9,653億円（前期比30.4%増）
営業利益 1,232億円（前期比16.4%減）

- エナジーデバイス（二次電池）
 - ↳ 前期比で増収減益。パワーセル製品向け先行投資や材料価格高騰の影響により減益。
 - ↳ モバイル用途（スマートフォン、タブレット、ノートPC）向けの販売数量は横ばいで推移。
 - ↳ 家庭用蓄電システム、電動二輪車向けのパワーセル製品の販売が大幅増。
- 電源
 - ↳ 産業機器用電源は前期比で増収増益。

2022年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/5/11・7

エナジー応用製品セグメントは、売上高が9,653億円、営業利益は1,232億円となり、前期比30.4%の増収、16.4%の減益となりました。

二次電池においては、為替変動影響や材料値上りの影響に伴う価格転嫁による売上増加を除くと、スマートフォン生産台数が前期比で減少しICT市場向け販売が微増にとどまった一方、電動二輪車向けや家庭用蓄電システム向け等パワーセル製品の販売が順調に拡大し、全体では前期比10%強の増収となりました。営業利益については、ICT市場向けの実質売上が増加しなかったなか、第3四半期より原材料価格が再び急騰し減益の影響が残留したことや、約150億円のロイヤリティ費用計上もあり、前期比で減益となりました。産業機器用電源は、半導体製造装置等産業機器向け需要が堅調に推移し、増収増益となりました。

営業利益増減分析

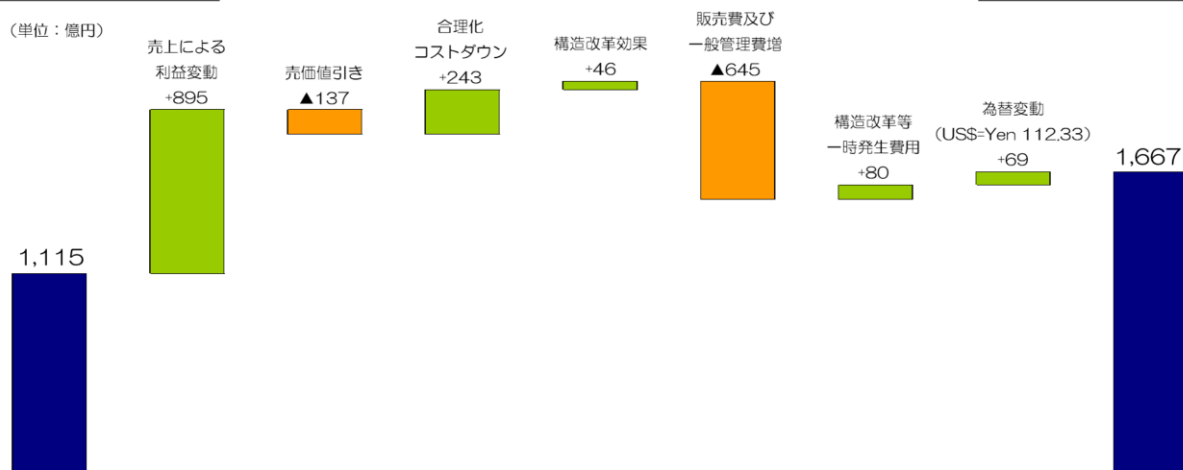
Attracting Tomorrow 

2021年3月期
1,115億円

営業利益 +551億円

2022年3月期
1,667億円

(単位：億円)



2022年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/5/11・8

続いて、営業利益551億円増益の増減分析です。受動部品の増収による収益拡大、センサの黒字化、HDDヘッドの収益回復等により、二次電池等の材料価格高騰の影響があったなかでも、売上による利益変動が895億円の増益効果となりました。売価値引き影響は軽微にとどまった一方、合理化コストダウン及び前期第4四半期に実施した構造改革による効果が合計289億円となり収益性を底上げしました。

販売費及び一般管理費は645億円増加しました。この主な要因は、二次電池に係るロイヤリティ費用約150億円の増加、受動部品の売上拡大に伴う販売費用の増加やコロナ禍による世界的な物流費用の増加、二次電池におけるパワーセルのパック事業拡大等による費用増加です。第4四半期に発生した構造改革等一時発生費用は前期176億円から80億円減少し96億円、対円安の為替影響で69億円の増益となりました。この結果、営業利益はトータル551億円の増益となりました。

2022年3月期 セグメント別四半期実績

Attracting Tomorrow



	(億円)	2021年3月期 第4四半期 (A)	2022年3月期 第3四半期 (B)	2022年3月期 第4四半期 (C)	対前年同期比増減 (C) - (A)		対前四半期増減 (C) - (B)	
					増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
売上高	コンデンサ	443	508	504	61	13.8	△ 4	△ 0.7
	インダクティブデバイス	390	470	457	68	17.4	△ 12	△ 2.6
	その他受動部品	306	318	310	4	1.4	△ 7	△ 2.3
	受動部品合計	1,139	1,295	1,272	133	11.7	△ 23	△ 1.8
	センサ応用製品合計	239	361	351	113	47.2	△ 10	△ 2.8
	磁気応用製品合計	546	640	584	38	7.0	△ 56	△ 8.7
	エナジー応用製品合計	1,873	2,561	2,741	867	46.3	179	7.0
	その他	125	139	134	9	7.2	△ 4	△ 3.1
	合計	3,922	4,997	5,083	1,161	29.6	86	1.7
営業利益	受動部品	95	226	157	62	65.8	△ 69	△ 30.6
	センサ応用製品	△ 85	37	△ 3	82	-	△ 39	-
	磁気応用製品	△ 41	33	△ 35	6	-	△ 68	-
	エナジー応用製品	250	390	265	15	5.9	△ 125	△ 32.1
	その他	△ 83	△ 7	△ 9	75	-	△ 2	-
	小計	136	678	375	240	176.8	△ 303	△ 44.7
	全社および消去	△ 95	△ 86	△ 101	△ 6	-	△ 15	-
	合計	41	592	274	234	577.1	△ 318	△ 53.7
	営業利益率	1.0%	11.8%	5.4%	+4.4pt	-	-6.4pt	-
為替	対ドルレート (円)	105.87	113.67	116.14				
	対ユーロレート (円)	127.75	130.06	130.35				

2022年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/5/11・9

第3四半期から第4四半期のセグメント別売上及び営業利益の増減要因についてご説明します。

まず受動部品セグメントの売上は第3四半期から23億円、1.8%の減収、営業利益は69億円、30.6%の減益となりました。売上は、自動車市場向けが好調に推移した一方、ICT市場向けはスマートフォン向け販売が減少し、高周波部品が大きく減少しました。営業利益は第4四半期に一時費用21億円を計上したことや、中国の旧正月休暇による稼働減もあり減益となりました。

センサ応用製品セグメントは、売上が10億円、2.8%の減収、営業利益は第4四半期の一時費用20億円を除くと20億円の減益となりました。温度・圧力センサの売上は自動車市場向けが好調となり若干の増収、磁気センサではホールセンサが自動車向けで堅調に推移、TMRセンサはスマートフォン大手得意先向け新製品販売が季節要因で大きく減少、モーションセンサは第3四半期から横ばいで推移しました。営業利益は、TMRセンサの減収により減益、MEMSセンサの開発費増加で若干減益、ホールセンサはエネルギー費高騰の影響等により減益となっています。

磁気応用製品セグメントは、売上は56億円、8.7%の減収、営業利益は第4四半期の一時発生費用29億円を除き39億円の減益となりました。売上はデータセンター需要の低下等により、HDDヘッドの販売数量がニアライン向け及びPC向けで約19%減少となりました。HDD組立販売数量も約17%減少し大きく減収、HDDサスペンションは微減となりました。マグネットは自動車向け需要が堅調で微増となりました。営業利益については、HDDヘッドが数量減少に加え中国旧正月休暇による稼働減により大きく減益、サスペンションは一時費用を除き若干増益、マグネットは原材料値上り影響が残留し一時費用17億円を除いても赤字が増加しました。

エナジー応用製品セグメントは、売上が179億円、7.0%の増収、営業利益は125億円、32.1%の減益となりました。二次電池の売上は、スマートフォン生産台数が減少したなか、為替影響や材料単価上昇に伴う売価転嫁による売上増加影響を除くベースで微増、産業用電源は若干の増収となりました。営業利益は、二次電池において材料価格が第4四半期から更に高騰した影響が大きく残留し減益、産業用電源は増収により増益となりました。

私からの説明は以上です。ありがとうございました。

将来に関する記述についての注意事項

Attracting Tomorrow



この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。
https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/conference/2022/4q_1.html